

令和4年度自己評価・学校関係者評価報告書

岐阜県立郡上特別支援学校

学校番号	1 1 2
------	-------

自己評価

学校教育目標等
(1) 校訓 あかるく なかよく たくましく (2) 学校教育目標 一人一人の可能性を最大限に伸ばし、「自己肯定感」「豊かな心」「健やかな体」を育て、夢や目標の実現に向けて生き生きと活動する児童生徒を育成する。 ① 夢や目標の実現に向け、様々な活動に意欲的に取り組むことができる児童生徒 ② 豊かな人間関係を築き、進んで地域や社会の活動に参加できる児童生徒 ③ 健康の増進と体力の向上に努め、生き生きと活動できる児童生徒

※記入凡例

<成果と課題> ◎：重点事項 ○：成果 ●：課題
 <評価> A：達成できた B：概ね達成できた C：やや不十分であった D：不十分であった

領域	重点項目	具体的取組及び成果と課題	評価
学校経営 組織運営 各部重点	◎児童生徒一人一人の教育的ニーズやキャリア発達に基づいた教育の推進。 ◎地域と連携し、地域と共にある学校づくりの推進 ◎児童生徒の命を守るための教育の推進と危機管理体制の構築。 ◎全教職員が、生き生きとやりがいをもって働ける職場。 ◎誰もが働きやすい職場 ◎業務の適正化・効率化など働き方改革への意識の向上。 ◎小学部 仲間と共に活動し、自分の良さを知り自信をもって学習や生活に取り組める児童を育てる。 ◎中学部 だれとでも互いの良さを認め合い、目標に向かって協力して粘り強く最後までやりきる生徒を育てる。 ◎高等部 一人一人が夢や希望をもって学校生活を送り、自己実現に向けて自信と豊かな心を育みながら、地域社会の一員として自立できる生徒を育てる。	○研修・授業研究により、キャリア教育はキャリア発達を促す教育であり、教育活動全般で行う教育であるという共通理解が進んだ。 ○地域住民、地元企業や行政とのつながりを大切にして、各行事において積極的に地域と連携できた。 ○児童生徒が自分で身を守ることができるように、命を守る訓練、情報モラル教育、地域との防災活動を実施した。 ○働きやすい職場づくりの研修や意見交換を行い、教職員の利益につながるような取組を実施することができた。また、校長面談やハラスメント調査等で教職員の声を聞き取り、働きやすい職場の改善に努めた。 ○業務の適正化と効率化について、常に改善に努めた。 ○様々な仲間と直接関わる活動ができるようになり、仲間を意識して活動したり、仲間に自分の思いを伝えてやりとりしたりする姿が増えた。(小学部) ○中学生給食献立選手権への取組、郡上市の魅力を紹介する動画制作などを通して、仲間と協力して生徒主体で最後までやりきる姿が多く見られた。また、ふるさとの良さ気付き、愛着をもつことができた。(中学部) ○校外学習や地域と連携した学習を積極的に実施することができ、様々な人や地域との関わりが増えるとともに、生き生きと学習する姿につながった。(小中学部) ○自己選択や自己決定できる場面を多く設定したり、児童生徒が「できた」を実感できる振り返りや授業の工夫をしたりしたことで、自信をもち主体的に学習に取り組む姿につながった。(小中学部) ○感染症対策を図りながら、地域へ出ていき学習する機会がもてるようになった。実習や販売、発表などの場面で、どの生徒も自分自身の良さ気付き、さらに向上しようとする積極的な姿が見られた。(高等部) ○高等部の少人数化に伴い、学年の枠を超えた学習グループを編成して指導を行った。また、作業学習の班を二つして集団の規模が適正になるようにした。仲間との関係を通して学べる機会が増え、人と関わりながら問題を解決していく力が高まってきた。(那比高等部) ○オンライン授業等で人との関わりが持てる内容を多く設定し、同年代と接する機会を増やした。(大和高等部)	A
教科指導	◎体験的な学習を仕組んだり、ICT機器を活用したりして、児童生徒の主体性や、生活に生かせる実践的な力を身に付ける学習の充実を図る。	○地域交流、学校間交流、校外学習など校外で体験活動をする機会が増えることで、児童生徒の生きる力を育むことにつながり、学習活動を仕組むことができた。	B

	<p>◎新たな時代に必要となる資質・能力、学校教育目標の付けたい力を育成するために、児童生徒の発達段階や学習状況を踏まえ、教育的ニーズに応じた指導のねらいと評価の観点を明確にし、個に応じたきめ細かな指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の物事のとらえ方、考え方を豊かにし、学びに向かう力を育成するために、対話や関わりを大切にした指導の充実を図る。 ・外国語活動（小学部）、主権者教育、消費者教育等の現代的課題に応じた学習の充実を図る。 	<p>○●ICT 機器の活用について、オンライン授業などの技術は多くの職員が身に付けることはできたが、学習支援アプリの活用までには至っていない。</p> <p>○3観点でのねらいをもち、学習指導を行うことができた。</p> <p>●教科等合わせた指導について、観点別の評価を行うことについて検討したい。</p>	
キャリア教育	<p>◎キャリア・パスポートを活用し、学校生活全般において教師が児童生徒と対話的に関わりながら、学んだことを振り返るとともに自己肯定感や自信を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒一人一人の教育的ニーズやキャリア形成、発達段階に基づいた実践力を育成する指導を行う。 	<p>○キャリア発達を促す支援を意識することで児童生徒の成長を丁寧に評価できた。児童生徒へ返すことで、自己肯定感の育成につながった。</p> <p>●部間の連携や児童生徒の願いを大切に授業と、キャリア・パスポートとの関連について検討していく。</p>	B
ふるさと教育	<p>◎岐阜県や郡上市の魅力を理解し、地域の人と互いに認め合いながら地域に貢献できる児童生徒を育成する。</p>	<p>○コロナ禍ではあったが、地域交流ができる範囲で活発に行うことができた。</p> <p>●ふるさと教育と教育課程上の取り組みについて見通しが持てるような工夫が必要である。</p> <p>●GujoSmileサポーターズの活用を通して、地域の人と関わり、郡上市の魅力を理解できる学習を企画計画できるとよかった。</p>	B
総合的な学習（探究）の時間	<p>◎自分の生活、進路、地域に関する学習等に継続して取り組み、児童生徒のよりよく問題を解決する力や態度を育成する。</p>	<p>○総合的な探究の時間だけでなく、生活単元学習や進路に関する学習と関連付けながら学習を深めることができた。</p> <p>●校外学習の実施時期に偏りがあった。より学習を深めるため、ねらいを整理し、時期については他の行事と併せて調整し、次年度の計画に反映した。</p>	B
自立活動	<p>◎障がいについての自己理解を深め、自分の力を最大限に発揮しようとする主体的な態度を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科等と関連付け、教育活動全体を通して自立活動の効果的な指導を行う。 	<p>○外部講師（作業療法士・言語聴覚士）を招聘し、対象児童生徒一人一人の動作や課題について確認し、指導に活かすことができた。</p> <p>●児童生徒個々に応じた支援目標を明確にした上で、各教科とさらに関連付けて適切な支援を行うことが必要である。</p>	B
道徳教育	<p>◎経験の拡充を図り、豊かな道徳的心情を育て、道徳的判断や行動ができる力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間や地域の人々との触れ合いを通して、命を大切にす心、相手を思いやる心、感謝する心を育て、温かい人間関係を醸成する。 ・体験的な活動を通して、自己を見つめる力や社会生活のルールを身に付け、強く明るく生きようとする意欲と態度を育成する。 	<p>○コロナ禍ではあったが、仲間や地域の方との交流を通して、体験的に学ぶことができた。</p> <p>○人権七夕や生徒会等を中心に他者のいい所見つけ等の取組を実施し、思いやりや他者理解の心を育むことができた。</p>	A
特別活動	<p>◎児童・生徒に生徒会活動、委員会活動等の仲間とともに協力して活動を展開する中で、より良い学校生活を築き、自主的、実践的な態度を育成する。</p>	<p>○学校祭の係活動や委員会・生徒会活動では、仲間と同じ目的をもって考え、話し合い、協働活動を実施する中で自主性や仲間意識を育むことができた。</p>	A
ICT活用推進	<p>◎ICT活用推進計画の下、ICTを活用した「学びのスタンダード」の効果的な授業実践を積み上げる。</p>	<p>○児童生徒の実態に合わせてタブレット端末を活用した授業実践を行うことができた。</p> <p>●授業実践の交流を行う場が少なく、個人の取り組みとなってしまう。</p>	B
研修	<p>◎学校が抱える課題や職員個々の課題を明確にし、課題解決のための主体的な研究、研修、授業公開を推進する。</p>	<p>○職員が個々の課題に沿った校外の研修に積極的に参加することができた。</p>	A
健康教育	<p>◎児童生徒が自らの健康、心身の成長発達に関して適切に理解し、行動できる力を育成する。</p> <p>◎生涯にわたって健全な食生活を実現できる知識と習慣を身に付けられるよう、家庭と連携して取り組む。</p> <p>◎体育、健康に関する指導を通して、基礎体力の向上を目指し、運動に親しむ基礎を培う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症を含めた健康課題について正しく理解し、予防 	<p>○中学部、高等部では、薬物乱用防止出前講座を利用し、学校薬剤師と連携して心身の健康についての知識を得ることができた。また、小学部では季節と活動とを関連付けて、性教育を実施し、自身の体の成長の理解へと繋がった。</p> <p>○中学生給食献立選手権に向けた活動を通して、地元の食材に関心をもち、栄養バランスや食生活の大切さを理解することができた。</p>	A

	に必要な知識と習慣を身に付けられるよう指導の充実を図る。	○小学部段階から散歩や朝活動を継続的に行い、基礎体力の向上を目指した。 ○委員会活動で手洗い方法や感染症予防に必要な生活習慣について、啓発活動を行うことができた。	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ◎児童生徒の社会自立に向け、自らの可能性を最大限に発揮できる資質や能力の向上を目指す指導を行う。 ◎自信をもって主体的に活動参加できる人材の育成と、自他の生命を尊重することができる豊かな心の育成を目指す。 ◎問題行動や諸課題の解決に向け、保護者や関係諸機関等との連携を図る。 ・いじめ、不登校、性に関する問題、新型コロナウイルス感染症に対する差別や偏見防止等について未然防止と早期発見・早期対応に努める。 ◎「自分の命は自分で守る」ことのできる児童生徒の危機管理能力を育成する。 ・危機管理マニュアルに基づいた防災教育や管理を計画的に進め、自らの命を守る実践力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各教師並びに外部講師による情報モラル学習を行い、規範意識を高めることができた。また、情報モラルアンケートの実施により、実態を把握し個に応じた的確な指導を行うことができた。 ○日ごろの練習の成果を発揮する部活動の各種大会に自ら申し込み、積極的に参加することができた。 ○連絡帳、心のアンケート等の各種アンケート、ホームページなどを活用し、教職員、家庭、外部委員との情報共有を行い、問題等が発生したときの連携や迅速に対応するための組織作りができた。 ●いじめの定義などは、継続的に学校職員全体に理解啓発していく必要がある。 ○危機管理マニュアルに基づき、計画的に各種命を守る訓練を実施し、様々な災害に対する行動を意識付けることができた。また、体験活動を含んだ地域と連携を図った訓練や防災教育を実施した。 	B
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ◎「地域でたくましく働き続ける人」「地域の担い手となる人材」を育成する。 ・夢や目標の実現に向かって主体的に進路を選択する力を育成する。 ・社会のニーズに対応した働く力、変化する社会を生き抜く力を育成する。 ・小学部段階から実践力を育む進路学習、キャリア教育に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリア・パスポートを使用し、小学部段階からのキャリア教育の取組を進めることができた。職業準備性のピラミッドが浸透し、系統性のある取組ができた。 ○高等部、中学部では地域の協力を得て、進路行事を計画どおりに進めることができ、実習や事業所見学等を通して働く力を育むことができた。 ○進路通信に福祉サービス事業所紹介を掲載し、学部ごとの進路座談会を実施するなど、保護者の進路意識を高める情報を提供することができた。 ●個別のニーズに合わせた進路実現のために、職場開拓、啓発活動に取り組む。 ●PTAの研修委員会で事業所見学会を実施したが、参加者が少なかった。実施時期や高等部の現場実習の様子を知ってもらえるような内容にするなど検討をしていく。 	B
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ◎学校祭や米作り、清掃活動等の地域と学校がともに参加する行事を通して、互いに連携や協働をしながら地域に開かれた学校づくりを目指す。 ・学校間、居住地校との交流及び共同学習、地域での活動を通して、社会性や豊かな人間性を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○大和校舎では、米作りの中で、おにぎり作りやしめ縄飾りの作成もでき、栽培から収穫まで地域の方と共に学ぶことができた。那比校舎では、Goodjob喫茶に地域の方を招待し、交流することができた。両校舎において、今年度は地域の方と一緒に防災学習として避難所開設の訓練を行った。学校での取り組みをはじめ、児童生徒の様子を知ってもらえるよい機会となった。 ●GujoSmileサポーターの方への協力要請ができなかったため、来年度は実施していきたい。 ○共同学習と一部の居住地校交流では、直接顔を合わせて交流をすることができた。同じ地域に住む同年代の児童生徒と学び合うことができた。 ●居住地校交流では交流校の担任との連絡がつきにくいことが多く、交流計画通りに進まないことが多かった。 	B

学校関係者評価 (令和5年2月20日学校運営協議会実施)

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GujoSmile サポーターについては、新型コロナの感染状況も落ち着きつつあるので、地域の方に知っていただけるよう広報活動をしてほしい。 ・事業所見学の参加者が少なかったようであるが、継続実施することと保護者の希望する活動を組み入れるとよい。 ・全体的に、自己評価が厳しすぎるのではないか。内容的に良くなってきているので、もっと高評価をしてもよい。
